

## ▲お百姓さん、大工さん、魚屋さん、お侍さん… みんな夢中になった!

江戸時代、日本では独自の数学「和算」が発展しました。和算は、幅広い庶民が知的興味に導かれるままに発展させた点が、大きな特徴です。「算額」は、数学の謎解きに挑戦して発見した「難問の解答」や「定理」を絵馬に描き、神社や寺に奉納したものです。岡山市郊外にある神社に掲げられている算額には、侍や少年に交じて日本髪的女性二人がそろばんを使って高次方程式を解いている様子が描かれています。各地に残る算額も、農民、大工、魚屋、16歳の少女、代官所勤めの武士など、様々な年齢、階層の人たちが掲げました。

## ●大学、高校入試や数学オリンピックにも引用

明治以降、日本政府は学校で西洋式の数学を教えることに決め、和算は歴史の中に埋もれていきました。しかし、高校数学教師だった深川英俊氏の地道な研究と訴えによって世界が和算に目を向け、その独自の幾何学問題や高度な内容に驚きました。いま、算額の問題は数学オリンピックや日本の大学、高校入試にも引用されています。

## ■同時代の西洋に負けないレベル!

同位元素の発見でノーベル化学賞を受けた英国のフレデリック・ソディーは、幾何学でも功績を残しました。有名なものが、1936年に発表した「ソディーの6球連鎖の定理」と呼ばれるものです。ところが、その定理は、1世紀余り前の1822年、相州（現在の神奈川県）の寒川神社に掲げられた算額にすでに記されていたことが分かりました。このように、和算は従来考えられていたよりはるかに水準が高く、西洋数学で有名な法則や解法が、いち早く和算で得られていたケースが少なくありません。

## ▲各地の算額約130面が初めて名古屋に集合!

算額は現在、青森県から長崎県まで日本各地で約1000枚残っているのが確認されています。今回、日本各地から約130面の算額が名古屋に集まります。全国の算額が一堂に会するのは初めてのことです。

## ●パソコンで解いてみよう!

会場にはパソコンを用意します。算額の問題に、ぜひ挑戦してください。解ければアナタも、算術免許皆伝!



日本人であるにかかわらず、名古屋を訪れるすべての人にこの算額展を推薦します。これは、日本文化の偉大な宝物のひとつを見ることができる非常に貴重な機会です。

西洋の影響から切り離されていた時代、日本の数学愛好者たちは世界に類のない、芸術と幾何学の結婚ともいべき「算額」を創り出しました。通常、日本各地の寺社に掲げられている算額が、深川英俊氏によってこのたびの歴史的な展覧会のために名古屋に集められたのです。

(算額を見に) 1993年、岐阜県大垣市を訪れた心躍る記憶とともに  
2005年2月5日

アメリカ合衆国ニュージャージー州  
プリンストン高等研究所教授  
フリーマン・ダイソン



科学館へは公共交通機関をご利用ください。

交通・地下鉄東山線・鶴舞線「伏見」下車5番出口から南へ徒歩5分  
・バス「広小路伏見」下車・名鉄バス「白川公園前」下車

## なごやしかがくかん 名古屋市科学館



〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番1号  
TEL:052(201)4486 FAX:052(203)0788  
インターネットホームページ <http://www.ncsm.city.nagoya.jp/>  
観覧時間 午前9時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

入場料	当日	団体	前売り
一般	1,000円	900円	800円
大学・高校生	800円	700円	600円
小・中学生	500円	400円	300円

●団体料金は30名以上に適用。身体等に障害がある方、および付き添いの方(1人に限る)には割引制度があります。手帳をご持参のうえ窓口にてお問い合わせください。名古屋市交通局発行の乗車券のうち「ユリカ」「一日乗車券」「なごや環境きっぷ」を当日利用して来館した方には、当日料金から100円割引。「庶民の算術展」入場料でプラネタリウムを除く全館をご利用いただけます。



re100 このチラシは再生紙(古紙配合率100%・白色度82%)を使用しています。